

福岡県小学校 100号記念号 校長会報

福岡県校長会報一〇〇号の発刊に寄せて

福岡県教育委員会
教育長 吉田法稔

福岡県小学校校長会の皆様におかれましては、平素より本県の教育行政に御理解、御協力を賜り、誠にありがとうございます。

令和元年度末の全国一斉臨時休業以来、新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた対応は長期化しております。この間、各学校におかれましては、学びの保障と感染防止の両立に最善を尽くしていただきながら、子どもたちや保護者、地域の期待にこたえ続けていただいております。さて、この度、福岡県小学校長会報が記念すべき一〇〇号の発刊を迎えるに当たり、長きに渡る福岡県小学校長会の本県教育に対する御貢献に深く敬意を表します。

想像するに、校長会報一〇〇号が発刊される令和の時代は、一号（昭和五十五年八月）や五〇号（平成十年三月）が発刊された当時とは、社会的な背景に違いがあり、義務教育や学校への期待も、今日とは異なる状況にあったことと考えます。

一〇〇号が発刊されるこの期は、まさに教育の転換期であると認識しています。そのため、福岡県義務教育の重点として、昨年度は、「変化の芽を伸ばす」を掲げ、新しい福岡の教育へと動き始めました。また本年度は、「日々の小さな挑戦」を掲げ、取組を進めているところであります。教育の転換期には、大所高所から教育をみつめ直し、足元から地道な努力の継続が必要で

す。一人一人が当事者となり課題や葛藤と向き合いながら、日々の小さな挑戦を続けることで初めて成し遂げられるものと考えております。これまで本県は、「鍛えて、ほめて、子ども

の可能性を伸ばす」ことをコンセプトとして、非認知的能力を育成する「鍛ほめ福岡メソッド」を推進してきました。このことが「変化の芽」を生じさせたと自負しています。この手法・考え方は、子どもたちが自律的に成長するための原動力となる人格的な資質を育成する「子ども本位」の指導方法として、今後も、全ての指導者が共有し、全ての教育活動において徹底させていくものと考えています。

一方で、「子ども本位」の指導方法と申し上げましたが、それが、学校の都合が優先され、ステレオタイプ化されることがないように、いつも清新な気持ち、心で創造的に臨んでいただきたいとも思っております。それが、子どもの実態や社会の変化に対応した「日々の小さな挑戦」の一つであると考えます。どうか、これまでの本県の教育の成果を踏まえつつ、「日々の小さな挑戦」で、新たな本県の教育の創造に力を発揮してください。

最後になりますが、学校が抱える課題は複雑化、困難化しており、教員だけが全てを担っていることは、対応することが難しくなってきました。校長先生方におかれましては、今こそ、「チームとしての学校づくり」と働き方改革を実現させ、校長先生方のリーダーシップのもと、学校が未来を担う人財育成の場となることを祈念して、一〇〇号の発刊に寄せた言葉とさせていただきます。

発行人

福岡県小学校長会
会長 木下伸生

事務局

〒812-0053 福岡市東区箱崎2丁目52番1号
福岡リーセントホテル1階
TEL (092) 292-2292 FAX (092) 292-2294

特色ある学校経営

『道徳教育の充実』

『いい顔、いい声、いい心』を目指して

大野城市立大野小学校長 平野孝二

本校は明治二十三年に開校し、今年で創立百三十二年目を迎える歴史のある学校です。教育目標である「社会力を身につけた 自尊感情の高い子どもの育成」を目指して、道徳教育に取り組んできています。

令和元年度には市指定研究発表会、本年度は国際教育の視点に立った県研究発表会を開催します。研究の日常化に向け、道徳科の授業づくりについて研鑽を積んでいるところです。

このような道徳教育を通して、『いい顔、いい声、いい心』の子どもの姿を目指しています。

一 『いい顔』に向けた取組

「おはようございます」一日のスタートは気持ちのよい挨拶から！本校では、正門での『校門一礼』を重点的に取り組んでいます。児童会の挨拶紹介VTRを放映したり、『挨拶キャンペーン』と題して児童による挨拶運動、各学年で挨拶カードに取り組んだりしています。挨拶を重点的な取組にしたことで、子どもたちの『いい顔』が見られるようになってきました。

二 『いい声』に向けた取組

仲間との「伝え合う活動」を通して、自分の考えを磨くとともに、仲間のよさを認めることができるようにしています。そのために、考えを伝え合う目的をもとに、自分の考えを明確に

表現し、友達と考えを出し合ったり、比べたりして、新たな考えをつくり出すようにしています。また、声と心を合わせて歌を歌ったり、リズムを感じて体を動かしたりしています。

このような、伝え合う活動や合唱を通して、『いい声』の子どもの姿を目指しています。

三 『いい心』に向けた取組

本校の伝統である道徳科の授業づくりを中心に心を育むようにしています。特に、自分自身を見つめることができるように表現活動を工夫しています。また、地域の方々とふれあう活動を通して、道徳的な体験の積み上げを大切にしています。



【正門での挨拶】

特に、登下校の見守りをしてくださっている地域の方々や六年生とのふれあいが見られました。卒業式の日・・・

『おめでとう』のお祝いの声の中、正門をくぐって登校した六年生。コロナ禍で卒業式に参加できない地域の方々が、正門の近くでアーチを持って出迎えてくださいました。子どもたちのアーチをくぐる顔が笑顔で溢れていました。

四 今後の取組

将来に向けて、よりよく生きる喜びを味わうことができるように、キャリア教育やSDGsの視点を取り入れたいと考えています。そうすることで、今の自分自身だけでなく、未来に向けた自分自身を見つめることができるのではないかと考えています。

小中一貫教育校のよさを生かした学校づくり

東峰村立東峰学園校長 梶原秀昭

本校は、朝倉郡の東端に位置し、大分県日田市と隣接する東峰村唯一の公立学校です。平成二十三年に施設一体型の小中一貫教育校として誕生しました。現在、小学部七十四名、中学部四十二名の子どもたちが生活を共にしています。小中一貫教育校のよさを生かし、教育目標「郷土を愛し、豊かな人間性と未来を切り拓く力を身に付けた子ども」の育成を目指しています。

一 「憧れと長幼の心を育む」縦割班活動

「憧れと長幼の心を育む」とは、発達段階や学習経験等が異なる子どもどうしが活動を共に



【中学生と一緒に花育活動（縦割栽培活動の様子）】

すること、下学年は高学年への憧れを抱き、高学年は中学年、下学年に対する慈しみの心を育てていくことです。年間を通して一年生から九年生が一堂に会して活動を創る小中合同の縦割班活動に取り組んでいます。具体的には、栽培活動やスポーツ集会、縦割鍛錬遠足などがあります。

① 縦割班で取り組む花育活動
縦割班毎にプランターで花を育てる花育活動を年三回行っています。九年生と六年生が中心となって計画・運営していきます。教職員は見守りに徹します。定植後は、班で水やりを分担したり、花摘みをしたりしながら、花いっぱい

② 保・小・中合同の学園文化祭

村内の保育所・園を招き、保・小・中合同の文化祭を開催しています。子どもたちは、他学年の発表や歌声を楽しみにしています。特に、九年生の発表は、学園の最上級としての存在を示してくれます。その姿は、小学部の子もたちにとって憧れの存在でもあります。自分と将来自分が目指す姿を重ね、憧れの気持ちを持ち続けてほしいと思っています。

二 学力向上の取組

① 小中連携による一部教科担任制の取組

小中一貫教育校であることのよさの一つに、中学部の教員による小学部での授業があります。理科・保健体育・美術・家庭・音楽を担当する中学部教員に兼務を発令し、一部の単元等で中学部教員が教科の専門性を生かした指導を行っています。子どもたちは、中学部教員の授業形態に慣れることができ、中学部の教科担任制へのスムーズな移行ができるようになりますと考えています。

② 一人一台端末を活用した授業づくり

本校では、県重点課題指定研究の委嘱を受け、タブレット端末を活用した授業の工夫に取り組んでいます。子どもがタブレット端末にT O H O スタディ・ログ（学習履歴）を蓄積して、自分自身の学習の足跡を確認したり、友達と解決方法について話し合ったりして主体的に学習を調整しようとする姿を目指しています。小中の教員もICTのスキルを高め、一年生から九年生まで一貫した指導により、学力向上につながるよう日々実践を積み重ねています。

今後も保護者・地域と共に、小中一貫教育校のよさを生かした教育活動を推進していきます。

地域と共にある学校

大牟田市立みなと小学校長 馬籠 秀典

みなと小学校は、福岡県で最南に位置する学校です。現在、児童数二百四十四名の規模校です。本校の教育目標である「自他のよさを尊重し、豊かな心と健康な身体をもち、主体的に学び合える児童の育成」に向けて教育活動を展開しています。

特に、本校の校区西側が有明海に面し、世界文化遺産である三池港があるため、地域の特色を生かした海洋教育と、令和二年七月豪雨の経験より防災・減災教育に取り組んでいます。

海洋教育では、有明海をテーマに、子どもたちが有明海の恵みを知り、森・川・海的环境保全を考える環境的側面での学習や、三池港の歴史や他地域との貿易等を調べる社会・経済的側面から学習を行っています。これらの学習を通して、人と海との共生について考え、持続可能な未来を切り拓いていく子どもを育てたいと思っています。

具体的な取組としては、三年生が有明海の生き物調べを行い、干潟観察や地域の漁師さんから有明海の魚に関する講話を聞いています。四年生では有明海のごみ調査を行い、海的环境について考えています。五年生では三池港の港湾の造りや、歴史・貿易等を調べています。六年生では今までの学習を振り返り、海と人々が共生していくために、自分にできることは何かを考え、それらを身近な所から取り組んでいくように学習を進めています。

そのため、市内の海洋教育推進校四校で、各校の学びを交流する合同授業を実施していま



【干潟観察の様子】

す。九州沖縄地区の海洋教育推進校による「海洋教育子どもサミットin大牟田」も開催し、参加した他県の子どもたちの取組を交流したり、参加者全員で自分たちにできることについて討議したりしています。

防災・減災教育については、令和二年七月豪雨の被災経験により命の大切さを実感し、自助・共助について学習する必要性を強く感じました。被災後学校が再開できたのも、地域の方々や保護者を含め、多くの皆様からのご支援のおかげだと思えました。これらの支援を忘れず、感謝の気持ちを持ち続けてほしいという願いも含め、防災・減災学習に取り組んでいます。

具体的には、五・六年生が令和二年七月豪雨の原因を調べ、地球温暖化による海水温の上昇や、大雨や津波による被害から命を守る防災・減災学習を行っています。地域のフィールドワークを行い、調べた事をマップやリーフレットにまとめ地域に発信しています。

他にもみなと小学校では、令和二年七月豪雨が発生した七月六日を「みなと小防災・減災を考える日」とし、地域の方々や保護者の協力のもと、避難所設営や保護者引き渡し、集団下校の訓練も行っています。

校長としてこれからも子どもを守ることや、地域のひと・もの・ことを活用し、地域と共に持続可能な未来を切り拓いていく子どもを育てたいと思います。

キャリア教育を軸とした 小中一貫教育

飯塚市立幸袋小学校長 松隈崇世

本校は、小学部四七三名中学部二二九名、総計七〇二名、開校六年目を迎えた小中一貫校です。小学生と中学生と一緒に登校する姿も当たり前となりました。

本校における小中一貫教育の特色は、その中心にキャリア教育を置いていることです。学校の教育目標を小中共通の「自ら学び、仲間と共に夢（志）の実現を目指して挑戦する子ども育成」自律・協働・創造」とし、義務教育を修了する九年生時において、自分らしい自立に必要な基礎的・汎用的能力を身に付けた子どもたちの姿の実現を目指しています。

本校では、「結いの日」や「小中合同委員

会」等小中一貫校ならではの取組の他に、キャリア教育の柱となる活動を二つ設定しています。「夢・志プロジェクト」と「課題解決的学習(PBL)」です。キャリア教育で付けるべき力には、大きく分けて「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の四つがあります。前期(二年～四年)は、この四つの能力の基礎をつくる段階としています。中期(五年～七年)からは、主に本校児童生徒の課題である「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」に焦点を当て、学習を行っていきます。それらの能力を培うための核となる活動が



【1年9年の「結いの日」 共に伸びゆく】

二つの柱となる活動です。

「夢・志プロジェクト」では、四年生で「二分の一人式」、六年生で「夢を語る会」、九年生で「立志式」を実施します。常に夢を持ち、年齢が上がるにつれて夢は志となり、より具体的にふたり、実現のために自分がすべきことが明確になったりしていきます。自分の夢を語る子どもたちの顔はいつも生き生きとしています。

「課題解決的学習 (PBL)」とは、身の回りにある課題に気付いたり、その解決のための方策を練ったりする学習です。五年生の「ちよいボラ隊参上」学校のためにできること」に始まり、七年生「筑豊の企業とのコラボレーション」、八年生「コーポレートアクセス」大企業からのミッションをクリアせよ」、九年生「飯塚提言」飯塚の未来を考える」へと、向き合う対象を広げ、難易度を上げ、繰り返し課題解決的学習に取り組んでいきます。この活動の中で、物事を多面的・多角的に見る視点や、他と協働し、よりよいものにブラッシュアップしていく力が身に付いていきます。同時に子どもたちは、誰かのために働くことの意義を理解し、自分の価値の再認識を行っているように見えます。

そして子どもたちは、九年分の財産をキャリアパスポートに詰め込み、身に付けた資質・能力や見つけた志を宝として卒業していくのです。

子どもたちが望む未来を掴みとっていきけるよう、小中一貫校である利点をフルに活用し、必要な資質・能力をしっかりと付けることができ学校づくりを行っていきたくと考えます。

「青藍」の誉れ輝く地域の 学校を目指して

鞍手町立古月小学校長 木村 京子

本校は、全校児童六十七名の小規模校です。旧産炭地でもあり、田畑や山川等の自然豊かな地域です。校区内には、古月横穴や国学者「伊藤常足翁」の旧宅があり、その歴史と遺産は連綿と受け継がれています。本校では、教育目標「地域を愛し、自ら進んで学ぶ古月っ子」を掲げ、コミュニティ・スクールとしての取組を大切にしています。校歌の歌詞やPTA広報誌の表題「青藍」という言葉には、地域と学校が協働的に人間性豊かな児童を育成することへの意識の高さや誇りが表れています。

① 地域のひと・もの・ことを生かした取組 食育の充実

全学年、生活科や総合的な学習の時間に於いて、児童の主体的な学びを促し、課題解決につながる体験活動を位置付けています。校区の農家や鞍手町の環境農政課等の協力を得て、コロナ禍に於いても、ズームを活用する等、可能な活動を工夫し、継続してきました。

五年生の「米プロジェクトに挑戦しよう」では、社会科と関連させ、種籾まき、田植え、稲刈り、しめ縄づくりを体験します。今年も三年ぶりに対面の感謝集会を行い、地域や保護者に学びを発信します。三年生「大豆の不思議をみつけよう」は、国語科と関連させ、大豆の種まき、枝豆の収穫と販売、大豆を使ったきな粉や豆腐作りなどを体験します。枝豆の販売は、地域の農産物直売所で行い、毎年、大盛況です。

② 鞍手町の歴史探訪プログラム

鞍手町では、歴史民族博物館の協力を得て、六年生に歴史探訪プログラムを位置付けています。遺跡を巡るフィールドワーク、勾玉や土器づくり、火おこしなどを体験し、自分のテーマについて、新聞を作り、地域にも発信します。また、五年生はGTを招いて、炭坑の歴史を学んでいます。石炭を実際に七輪で燃やす体験活動やフィールドワークを通して、石炭が人々の暮らしと共にあったことを知り、人権学習にもつながっています。

二 よい生活習慣を啓発するPTA活動

「タッチ・オアシス・イリコ運動」は、二十五年以上続くPTA活動です。親子が登下



【フィールドワーク (古月横穴) の様子】

校時等に手と手をタッチし、日常の挨拶を交わし、健康のためにカルシウムを摂取できるイリコを食べる取組週間を学期に一回、位置付けています。学級委員会が担当し、頑張りカードの結果や保護者からの感想をPTA便りで見せ、生活習慣の確立への啓発を行っています。欠席や遅刻が大変少なく、語先後礼や気持ちのよい挨拶が本校の伝統になっているのは、児童会の挨拶運動や、この活動が基盤になってい

ます。
このような取組において、学校の役割は、児童が地域のよさに気付き、自分の生き方を考える深い学びになるようコーディネートすること、児童の学びを地域に還元し、地域を活性化することです。今後も「青藍」の理念のもと、地域と共にある学校づくりを推進していきたいと思

学校を活性化する人材育成の取組

菊田町立与原小学校長 和 才 輝 俊

本校は全校児童が七百二十四名、学級は二十七学級、京都郡内で最も規模の大きい学校です。近年、教職員の世代交代が進み、二十代三十代の担任が半数以上となっています。教科指導はもちろん生徒指導や特別支援教育の推進など、日々の業務で必要となる実践的な指導力の習得が急務となっています。そのため、校内組織体制の整備と研修方法の改善を進めています。

① 校内組織体制の工夫 学年組織への支援体制の構築

本校は、各学年に学年主任を位置付けています。しかし、学年主任も経験が浅く、教頭、主幹教諭、研究主任（指導方法工夫改善担当）を学年主任のメンター役として指名しています。また、再任用教員（週三日勤務）の二名をそれぞれ、五年生（家庭）、六年生（音楽）の専科、学年副担任として配置しています。このようにすることで、人材育成について教員一人一人が意識できるようにするとともに、日々の業務を通してメンターから学び、主体的に指導技術の向上を図れるようにしています。

② クラスター非常勤講師の効果的活用

本校には、『クラスター非常勤講師（ふくおか学力アップ推進事業）』が、若年教員の授業改善支援として配置されており、その効果的活用も進めています。若年教員を中心に学年全体の参観、TT授業等を行い、事後研修を学年全体で行うようにしています。このことで、講師の指導が、他の教員への指導に生かされたり、若年教員への指導モデルとなったりしています。

二 研修方法の工夫・改善の推進

本校では、効率的に校内研修を進めるためにその持ち方の見直しを行っています。

① スクランブル型校内研修の試行

『スクランブル型研修』を校内研修に位置付けています。例えば、「生徒指導」「特別支援教育」「体力向上」の研修を同時に行い、学年の教員が、分かれて参加します。その後、研修内容を同学年会で参加者が伝達するようにします。このようにすることで、研修枠への参加人数が減り、演習を取り入れやすい、若年教員が伝達講習をするなど参加者の主体性が期待できる、研修時間の精選なども図ることができます。

② 研究発表会に向けた授業改善の推進

本校は、一月に研究発表会（算数科）を予定しており、当日、研究協議会を位置付けています。そのことで、若年教員も予め授業のポイントや他の授業場面との関連などについて、より多面的に教材研究を行って授業に臨むことにつながるかと考えています。今後の授業改善の更なる質的向上につながることを確信しています。

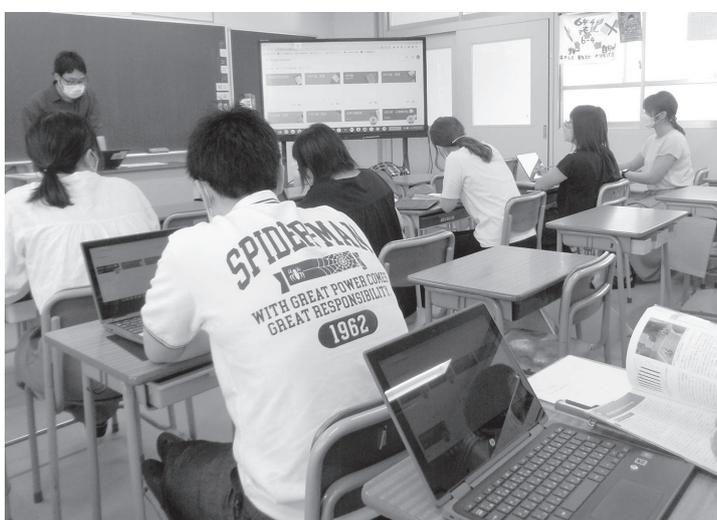
【成果】と【課題】

○職員が授業改善への取組の肯定的自己評価

○若年教員の研修への積極性の向上

●人材育成のための方策の工夫

本校の諸先輩の先生方が築き上げてこられたこれまでの教育文化を伝承し、さらに発展できるように努めていきたいと考えています。



【スクランブル型研修の1コマ】

各部の活動報告

対策部活動状況の報告

対策部長 税 田 雄 二

今年度の対策部の活動は、福岡県教育委員会への要望書の取りまとめ及び市町村教育委員会へ要望内容についての実態把握、全連小三地区対策担当者連絡協議会への参加と、三部幹事会における情報交換が主な内容です。例年行っています被災地等の研修視察につきましては、見学地や宿泊先等は決定していましたが、コロナ感染拡大のため、本年度は夏季休業期間中に中止を決定しており、来年度こそは実施する予定です。

一 本年度の要望書の重点項目

小学校・中学校の合同会議において内容を検討し、次の七点の要望を行いました。

- ① 学級編成及び教職員定数の改正
 - ・ 加配定数を基礎定数に振り替えること
 - ・ 教職員定数を拡充させること
- ② 教職員の人事の適正化
 - ・ 小学校における授業の持ち時間数削減による業務改善に向けた専科教員の採用
 - ・ 指導方法工夫改善教員のさらなる増員
 - ・ A L T や教育の情報化推進に向けた専門職員の配置
- ③ 教職員の人事の適正化
 - ・ 特別支援教育に係る人的・物的環境整備
- ④ 教職員の人事の適正化
 - ・ 正規採用教職員の配置、教職員確保に向

けた採用の在り方の検討

・ 現場の負担にならない講師の速やかな配置

⑤ 安全・安心かつ活力ある学校づくり

・ 児童生徒の教育の機会均等を保障するための I C T 環境整備

⑥ 教職員の処遇改善

・ 業務内容の精選及び削減を中心とした勤務状況の改善を図る施策の具体化

⑦ 部活動の適正化及び部活動改革の方向性の明確化

・ 「運動部活動の地域移行」に関する提言等について、今後のスケジュール、具体的な方法等の提示

二 全連小三地区対策担当者連絡協議会

日 時：令和四年十月二十一日

場 所：福岡リーセントホテル

協議題：①学校における働き方改革の進捗状況について

三 これまでの主な活動と今後の予定

① 小中連絡会（重点項目内容選定）

五月二十四日、六月九日

② 県教委への要望書提出

七月九日

③ 県教委 小中学校校長会要望書に係る説明会

十一月十七日

④ 全連小三地区対策担当者連絡協議会

十月二十一日

⑤ 市町村教育委員会要望内容についての実

態把握・集約

⑥ 対策部長会

十二月末まで

一月二十五日

調査研究部活動状況の報告

調査研究部長 緒 方 勝 彦

調査研究部は、県小学校長会の活動方針に基づき、研究主題「豊かな未来を創り出す子どもを育てる小学校教育を推進する学校経営」に関する調査及び研究を行っています。

一 調査研究部アンケート

本年度は昨年度のアンケートに「教科担任制（専科制）」の項目を追加し、次の二つの内容について県内抽出の八十六校から回答をいただきました。

調査① 教育活動に係る現状と課題

調査② 教員の資質向上や意識改革に向けた取組

その結果と分析について少し触れます。

・ 各学校では週時程を工夫するなどして時数確保に努めている。これまでのコロナ禍での経験を活かし、I C T をさらに積極的に活用する学校が増えている。

・ 授業改善は概ね進んでいる。有効な方策としては、校内研修の充実と日常化であることが例年と同様に多い。加えて、管理職と研修部の連携による授業訪問と指導助言を高めている。こうとする学校が増えている。

・ ほぼ全ての学校で一人一台端末や W i i F i

環境が整備されている。端末の自宅への持ち帰りも七十二％の学校で実施されている。

・教科担任制（専科制）を実施している学校が六十四％と増えている。働き方改革の推進に向けても効果があると考える校長は多いが、各校とも人員確保で苦慮している。

・働き方改革推進に向け、多くの学校で組織的に取り組んでいるが、成果は十分とは言えない。教師の意識改革が必要である。
詳しくは報告書にまとめていますので、是非ご一読ください。

二 三地区調研担当者連絡協議会

・日 時 令和四年十月二十一日

・会 場 福岡リーセントホテル

・参加者 中国、四国、九州地区十七県の調査研究部長

・内 容 ①教員の資質向上に向けた取組

②学習指導要領全面实施三年目に係る取組状況と課題

挨拶では、全国連合小学校長会の大会会長、横溝広報部長、上村調研部長からお話があり、最新の教育の動向や校長会が目指す対応方針などについて理解を深めることができました。

続いて、中国・四国・九州各県の代表調研部長による協議が行われました。各県とも職層に応じた研修を充実させているものの、キャリアステージに応じた人材育成には苦慮していることが分かりました。また、学習指導要領全面实施三年目にあたった取組状況からは、各県ごとの強みと弱みがあることが分かりました。全体を通して、全国の小学校で同レベルの教育を

提供する難しさを感じると共に、校長会が担う役割と責任の大きさを再認識しました。

広報部活動状況の報告

広報部長 田 中 健 悟

今年度も広報部では、県小学校長会の活動方針に基づき、本県の教育活動の動向、諸団体・機関からの情報を収集し、適時性のある情報提供に努めながら、創意ある学校経営の充実に資するため、「小学校長会報」を発行するなど、積極的・組織的な広報活動を展開しています。

また、全国連合小学校長会からの広報依頼に対応し、「小学校時報」の原稿執筆、全連ホームページ「特色ある学校紹介」掲載への協力も行っています。

さらに、県小学校長会ホームページの管理及び運用を始めたところです。

一 これまでの具体的な活動

(1) 県小学校長会及び各郡市校長会における広報活動の活性化に資する広報部長研修会

※今年度は、第一回、第二回ともに開催

(2) 学校経営充実に資する県小学校長会報誌

① 「校長会報」九十九号を七月に発行

内容「会長挨拶」（木下伸生会長）

「退任副会長挨拶」（六地区）

「新任校長抱負」（六地区）

② 「校長会報」一〇〇号を十二月に発行

内容「県教育施策の展望」（県教育長）

「特色ある学校経営」（六地区）
「各部の活動報告」（各部長）

(3) 県小学校長会ホームページの管理及び運用
更新内容

「令和四年度版に更新」

「第七十四回九州地区小学校長協議会研究大会

長崎大会の御案内・大会要録の掲載」

「研究紀要執筆依頼・原稿フォーマット等を

新着情報として掲載」

(4) 全連小機関誌への本県からの寄稿

○小学校時報

【六月号】今後の言葉「むずかしいことをや

さしく、やさしいことをふかく、」

福岡教育大学教職大学院教授 脇田哲郎先生

【八月号】会員の声「新しい時代に求められ

る危機管理体制・対応」

八女市立星野小学校長 徳永清美先生

【十一月号】各地区校長会の動き（九州地区）

県幹事長 大野城市立大和小学校長

黒澤真二先生

【二月号】学校めぐり「特色ある学校づくり」

岡垣町立内浦小学校長 宮原仁美先生

○教育研究シリーズ六一集

第一章「新しい時代の教育施策に即応する

学校経営」

太宰府市立太宰府小学校長 浦田貴子先生

(5) 研究紀要の作成

二 今後の予定

(1) 第三回広報部長会 一月二十五日（水）

(2) 令和四年度研究紀要発行 二月下旬